〔巻頭言〕

人間科学研究科紀要第 17 号発刊にあたって

人間科学研究科長 **藤　田　千鶴子**

ここ 2 年来、わたくしたちの生活のあらゆることがらがコロナ禍の影響を免れることはできませんでした。私たちが今まで当たり前のように享受していた「普通の生活」は次々と浸食されてきました。私たち教育者・研究者もまた様々な難題に襲われ、学生・大学院生たちの学習・研究、また大学院付属の心理臨床相談センターの活動の質の確保のために、様々な課題に直面し、解決への方策を模索しました。

「臨床」という言葉が端的にあらわしているように、心理臨床学の領域は、ひとと人とが直接関わることを前提としています。じかに関わることを通してその意味が初めて理解できることがあります。そのことを踏まえて、講義、演習、実習も可能な限り対面授業を中心とすることに努めました。もちろん全てを従来通りに実施することはできず、来学が難しい外部講師による講義等はオンライン授業とし、また、前年度中止せざるをえなかった公開講座や終了後研修もオンラインにより実施しました。このような状況の中で心理職専門家の養成機関として最も難しいことの一つは院生のための学外実習の場の確保でした。けれども各機関がそれぞれの状況の中で心理専門職養成のためできうる限り最良の機会を提供して下さったことは何よりの支援と感謝しております。

2004 年 4 月開学した鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科心理臨床学専攻修士課程も、17 年目を終えようとしています。その間、2006 年度より、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会臨床心理士養成指定大学院（第 1 種）に認定され、以来、幅広い知識・技能と豊かな人間性を備えた臨床心理士の養成に努めて参りました。また、2018 年度からは公認心理師の養成にも対応すべく、特に実習の一層の充実に心がけて参りました。臨床心理士および公認心理師養成の双方にとりより効果的な教育を目指して準備して参りました新たなカリキュラムおよび入試制度も今年度より実施を開始致しました。

今後も様々な困難が待ち受けているとはおもいますが、本紀要も第 17 号を発刊することができ、教育、研究、地域貢献のますますの充実のために努力しております。皆様のますますのご支援をお願い申し上げます。